8月2日 火曜日 1日発行
昭和30年西暦1955年
発行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5
電話 代表 京橋 56 8646
直通 販売 〃 0437 書告 〃 3995
編集局 港区芝田村町5の6
電話 代表 芝 43 1163
振替 貯金 口座 東京170071

内外タイムス
THE NAIGAI TIMES
第3175号 （昭和24年6月27日第三種郵便物認可・昭和24年5月27日国鉄特別扱承認新聞紙第232号）
（中華郵政台字第637號執照登記為第2類新聞紙類・内政内警証報台内台字第0136号）

天気予報
今晩 南西の風晴一時曇、夕刻から晩にかけ山ぞい、平野部俄雨、雷雨。
明日 北のち南の風晴たり曇ったり、夕刻から晩にかけ俄雨。

あすの暦 8月2日・火 旧6月15日
月齢 13.6
日出 前 4.49
日入 後 6.45
月出 後 5.37
月入 前 3.03
満潮 前 3.40 後 5.50
干潮 前 10.45 後 11.05
（大潮）

首相、各党首と会談

日ソ交渉で意見を交換

鳩山首相、重光外相は一日午後院内で緒方自由、鈴木左社、河上右社各党首および緑風会代表佐藤尚武氏を個別に訪問、日ソ交渉の経過を報告すると共に意見の交換を行った。政府はこの会談で日ソ交渉について各党の意見を参考として近く渡欧する河野農相を通じロンドンの松本全権に伝えるとともに、九月上旬渡米する重光外相の挨拶をも行う意向である。会談は午後三時まず自由党総務会室で行われ、鳩山、緒方両総裁の間で日ソ交渉問題および保守合同問題で相当 [illegible]

鳩山首相　重光外相

（上）緒方総裁（下）佐藤尚武氏

（上）河上委員長（下）鈴木委員長

話合い最高潮へ

あす松本・マリク九次会談

【ロンドン一日発＝共同】日ソ交渉第九回会談は（日本時間午後 [illegible]）ロンドンのソ連大使館で [illegible] 交渉開始以来二カ月 [illegible] 松本、マリク [illegible] うやく最高潮の [illegible] うである。松本 [illegible] はすでに見えな [illegible] る。しかしそれ [illegible] 万事急転解決するという意味では [illegible] ユーゴに対してとった措置と同じ [illegible] 結後に釈放する。[illegible] 日本は多くの要求を [illegible] たが、与えるものはほとんど [illegible]

[illegible] 立った国論をまとめあげ、この国論を背景とする日本政府と現地代表の間の意思を完全に疎通することである。

臨時国会召集

自由党総務会決定 全党員の名で要求

[illegible]

明年度予算は新党で編成

石井幹事長が示唆

[illegible]

ジグザグコース

甘い汁の分け前

[illegible] 砂糖会社の利益が自由党へ流れこむかどうかは知らない。しかし少くとも業者が空前の砂糖景気を謳歌していることは事実である。河野農相自身参院予算委員会で「本法案は必ず通るから」超過利潤問題はケリがつくと答弁しており、また国会終了後、農林省事務当局が砂糖価格の将来に不安を感ずるといっていること [illegible] 政策綱領も国民の幸福をうたっているだから、党利党略はそのまま国民の利益のための戦略であるということになるその意味では党利党略大いに結構なのだが実際は政策を忘れた党利になったりときに私利になったりするので、国民は愚をつかすようになるのである。

でも、この事実は明らかである。

問題は自由党が怒ったとか、農相が釈明したとか、社会党が不信任案を出したとかではない。十もない砂糖業者が八千万国民の損失において何十億というボロ儲けが続けられるということが問題なのである。河野農相が国民の利益を念頭においたならたとえ負けてもその出所進退は国民の拍手をもって迎えられたに違いないのだ。

もっとも農相は日本飼料会社の社長をやっており、この方では巧みなやり方で砂糖会社に負けぬボロ儲けをやっているという話がある。そういう負い目が、農相をして国民を忘れた党利党略、いや私利私略に走らせるのであろうか。（良）

河野農相

終戦十年 来し方行く末（上）

無血終戦の奇蹟

〝聖断の下るまで〟の混乱

下村海南

昭和二十年九月、マッカーサー元帥は世界へむけ、七百万の精兵が一発の弾も打たず一滴の血も流さず武装を解除した、かくのごとき無血終戦は世界の歴史にないと放送した。

覚悟されていた本土作戦にならずゲリラ戦は起らず、飢餓死にもならず第二世界大戦は八月十五日終戦の詔勅により平静のうちに終りを告げた。それもこれも聖断の賜であった。しかし終戦の玉音放送までには外に向ってより内に向って幾多のイバラの道があった。というのは陸軍の主戦派はクーデターをやっても戦いぬくべく意気込んでいた。中国の軍司令官であった岡村寧次大将の直話であるが当時何分にも本国および連合軍の情勢がよくわからない。それで参謀を東京へ飛ばすと「東京の血気連は、ナアニ大丈夫だが弱腰もいる。南京へかえったらしっかりやれとゲキレイせよ。内地へも強気の電報をよこせよ」といわれたとのことである。そうした調子だから、阿南陸相も終戦の実情をよく知らしめねばならぬと終戦の日延べを主張した。終戦詔勅放送の翌日には満州へ竹田、シンガポールへ閑院の各宮、南京へは新たに朝香大将宮を差遣したが、大将は内地を立つ時、南京では軟禁にあうよといわれたのである。

そうした空気だからドイツ降服後勝ち目は絶対になくなったが、勝ちつづけて来た在外軍、また敗戦を知らぬ内地軍の士気は衰えてなく、また衰えさしてはならぬ。それだけに、どうして外よりも内に和平工作をしあげるか一方ならぬ苦労がつづいた。そのうち八月六日ポツダム宣言に前後して、原子弾は広島に投下され、次で九日長崎に投下される。ソ連は日ソの協定を破り軍を満州にすすめた。それからは連日連夜最高戦争指導会議と閣議は交互に開かれた。ポツダム宣言受諾の旨を通じたが、その返事の条件につき、先方の申出に対し、八月十三日の閣議では閣員中二、三は反対した。クーデターのうわさは高まって来る、閣議は行きづまる。内閣総辞職となっても陸相が補任されぬかぎり後継内閣は生れない。宇垣流産内閣の例がある。組閣工作中に英米軍は本土へ、ソ連軍は北海道へ上陸する危険があった。

そうしたどたん場に翌十四日、閣議に先立ち午前十時に御前会議が開かれた。いまだ前例なき陛下よりのお召の会議である。前例なき閣員総出である。梅津参謀総長、豊田軍令部総長、さらに平沼枢府議長まで召された。陸相と両総長の戦争継続の奏上につぎ、鈴木首相は平和の進言をまたず、直ちに陛下のご聖断をお願いした。いまだかつてなきこの重大なる処断を陛下に願うこととなった。全責任を負うた陛下は自分の一身はかえりみない。邦家のため日本民族のためポツダム宣言受諾すべしとの聖断を下した。十四日の午後とうわさされた御前会議は午前にくり上げられ、聖断一下、ここにクーデターの動きがざせつした。終戦詔勅の玉音放送が無血終戦の奇蹟を生んだ。それでも八月十四日の夜、近衛師団長は射殺され、近衛反乱軍のぼっ発となった。宮中は外部から遮断され、放送局は占領された。横浜から水戸から反軍の加勢が入京した。かくいう私ども情報局、放送局の一行十八名は玉音放送の録音を終り宮中を退下するや軍のため二重橋内の近衛屯所に監禁された。

尊い犠牲となった森師団長、阿南陸相、大西軍令部次長の当夜の [illegible] 令官は反軍の鎮圧を終えて二十五日自決した。よくも十五日朝の放送を昼と変更したものであった。そのため録音盤も反軍にわたらずもし朝であれば放送局は占領されて放送できなかった。誠に天祐により予定通りに終戦の詔勅は全世界に放送することができたのである。

終戦内閣の首相鈴木貫太郎大将は国家の重寄にあたり、海軍のとうりょうであった。長く侍従長となり陛下の信任をうけ、枢密院議長にうつり、さらに戦局の収拾を決行すべく最後のこまとして昭和二十年四月七日首相となった。武将鈴木貫太郎は知の人、仁の人、勇の人であり、徳の人であった。外相東郷茂徳はよくその使命の達成につとめ、海相米内光政は終始和平の敢行に全力を傾注し、陸相阿南惟幾は和戦の間に善処して一身を捧げた。往時ぼうとして夢の如し、終戦ここに十年、世間は終戦そのものすら忘れられんとしつつあるが、日本再建のためには終戦の認識こそ忘れてはならぬ。（筆者は鈴木終戦内閣国務相、情報局総裁）

鈴木内閣成立の際の記念撮影、前列左から二人目鈴木首相、米内海相、中列左から二人目筆者、後列左端阿南陸相

粋人辞事

闇売り

宮尾しげを

ちょいと薄暗くて、それで人通りの少い町角で、おどおどしながら、

「もう残りが少いから早くして下さいよ」

と、あちらを見たり、こちらを見たりしてなにやら、ふところから紙きれを出して見せている。少し離れた街頭の電気の光りのあたった紙きれには、太股が出て、男と女がからみ合っているような絵が、チラリと見える。

「表はさつになっています。これを財布に入れておくと、お金に不自由をしないという品物です。中はなかく面白い絵です。どうです一枚五銭です。三枚なら十銭です。安いものですよ」

昭和の今日、五銭、十銭といえば、端銭で子供の駄菓子を買う小遣銭にも足りないが、ここに紹介する闇売りは、明治の終りから大正の初めごろにあったものなので、当時の五銭、十銭は相当な額で、五銭あれば銭湯に入って帰りにソバをたべられたぐらいであった。その時代であるから安いもんですというが、一枚五銭は相当高いものである。しかしどうも売り手の口上から考えると、中の絵はどうも「人間快喜の図」らしいので、ちょいと買って見たくもなる。

さて買ってみると一円札、今の千円札の上の方に、もう半分ほど付けた位の大きさで、橙色で 模様を四分の一だけ印刷 してある。

四ツ折にしたところ

（図上）この時代は一円札は大てい四つ折りにして蟇口に入れたものだ。いまのようにドル入れがまだ普及されていない頃で、ガマのような大きな口金のついた金入れなので、蟇口と名が出たくらいのものだ。これに紐を片方につけ首から下げたり、へこ帯にくくり付けて、ふところへ入れておくのがその頃のはやり。それに一円札をしまいこんでおくので、拡げたまゝでは出し入れに不自由なのでとかく四つ折りにしたものだ。

札はあとの三面は白、反対側は、さっき覗いた時は男女の取組のようであったが、全部ひらくと、なんのこと取組は取組だが力士の取組である。（図下）それも本格でない取組図である。説明するとこちらで四ツに組んでいると、向う側ではつっぱりで土俵際へ押されているといういいかげんなものである。これを四ツに折って、一片を見ると、力士の頭が女のまげに結った髪に見え、それに肌があらわに出ていて、手と手がからみ合っているから何かを暗示しているようだ。また別の一片をみると、上から押えつけている。いや押えつけられている裸女の姿のようにも見える。なかなか面白く工夫をしてある。

「なんだ、つまらねェ」

しかし次には、一つこれで誰かをからかってやろうと、自分が売りつけられた口上のようなセリフで、友人に見せて、自分の失敗の穴うめをする。

相撲の絵のほかに、私の見たのには、海水浴の男女の図があった。男が女を波間で胴中を抱えて泳ぎの練習をしているところだ。これを四分の一ずつ見ると、足が二本ぶざまに上っていて波のところがわざとまずく画いてあるので、布団を敷いてあるように見える。そこに男の手がニューと出ている。もう一つの四分の一をみると、女の身体の上に、男がのりかかっているような、これを指を巧みに使って売手は見せるのだから何だかゾクゾクする。これがつけ目である。

こんなフザケタものが、かつては往来で売られたものである。これと同じ手口で、暗がりで裸ローソクを立て、

「読んで面白く、独りで笑える絵本、これを買わないのは男の恥」

ちょいと見ると濃厚な色彩で桜の花がかいてあり、短冊形の中に「春の情」とか「大笑い」という本の名が書いてある。どうしてもエロ本である。そこで買ってきて、家の者が寝静まった頃、ふとんの中で開いて見ると「滑稽百人一首」と中題があっていつも通りの百人の絵姿。

天智天皇　あきれたよ、かり穂の稲はともあらみ我が衣手は露にぬれつゝーといったような歌が入っている。たしかにひとりで笑える。

【さしえも筆者】

市況 伸悩み一服

前週連騰のおとだけにさすがに買物一巡の据合いとなり、大証券買も消極化したため月替りの市場は概して伸悩み一服の場面となった。特定株は融資残も一気に十七億円台に増えたため買物は見送られがちとなりマバラの売物に軒並一—三円安と引緩み雑株も化学、石油、資源、金ヘン株などの先駆株はほとんど一服となり一部に利食売に軟化したものも見られたが電力株は遅ればせの買物に軒並続騰をたどったほか砂糖株など部分的に小高いものが散見され、全般はもみ合のうちにも底固い商状であった。

▽高い株＝北陸電十一円、関西電八円、東北電、北海電、東電、日セメ、電気精器、台糖四円

▽安い株＝日銀二十円、電気化学八円、荏原製作、吉原油四円

東京株式仲値

□新株落△配当落
（1日前場終値）

特定銘柄	値
東海上	264
郵船	59
新三菱	83
日清紡	264
味の素	276
三越	266
三菱地	491
平和不	183
三井金	113
三菱金	94
日鉱	89
住友金	97
三菱鉱	47
古河鉱	62
同和鉱	121
住友炭	55
三井山	55
北海炭	50
東邦亜	69
帝石	77
日石	105
昭和石	106
東燃	121
三菱石	127
大協石	123
日東化	82
日産化	78
三菱化	97
三井化	119
協和醗	113
東合成	123
三共薬	150

銘柄	値
信越化	82
東高圧	131
昭電工	91
日本曹	82
旭電化	71
三菱造	86
三井造	119
三菱重	63
石川重	90
精工	121
東洋ベ	107
日立造	49
浦賀	49
日平	18
古河電	70
日立製	75
東芝	74
三菱電	86
小松	51
日本光	138
キヤノ	145
東京光	—
東洋紡	144
鐘紡	121
富士紡	115
大日紡	81
日東紡	57
片倉	34
東邦レ	105
帝麻	50
中繊	51
帝人	139
東洋レ	179
三菱レ	130

銘柄	値
倉レ	97
旭化成	355
山陽パ	109
日本パ	105
国策パ	114
東北パ	128
大東紡	101
商船	46
三井船	48
飯野海	46
西武	—
藤田興	216
東京ガ	71
東電	504
日銀	1880
東銀	59
三井銀	69
富士銀	88
日証金	90
安田火	116
大正海	98
住友海	86
千代田	78
鋼管	75
日製鋼	68
八幡鉄	55
富士鉄	52
神戸鋼	55
日特鋼	114
日軽金	190
日金工	60
日セメ	140
磐城セ	241
小野田	81
横浜ゴ	165
旭硝子	152
富士写	135

銘柄	値
小西六	120
カホン	42
三井物	140
第一物	103
白木屋	—
高島屋	89
日活	68
松竹	201
東宝	1280
大映	175
日本粉	135
日清粉	165
日本ヒ	167
朝日ビ	184
キリン	201
宝酒造	99
台糖	251
明糖	128
甜菜糖	133
野田醤	189
森永	283
明菓	183
日水産	86
昭和産	104
東洋醸	70
合同酒	119
三楽	97
大阪糖	159
王子紙	221
十条紙	233
本州紙	91
三菱紙	90
北越紙	63
三井不	783
三井倉	75
渋沢倉	74
東洋埠	—

石川経団連会長帰国

米国の原子力工業の実情視察と米政府ならびに財界関係者と懇談のため去る六月九日渡米した石川経済団体連合会長は一日午前九時十五分羽田着の日航機で帰国した。なお鉄鋼業の生産性向上について五月末以来米国を視察中であった日本生産性本部派遣の鉄鋼調査団長佐山励一氏（富士製鉄取締役、室蘭製鉄所副所長）およびカナダのトロントで開かれた国際見本市に出席したのち同国の日本商品市場の開拓にあたったカナダ通商使節団長伊藤忠兵衛氏らも同機で帰った。

米・中共会談始る

【ジュネーヴ一日発ロイター＝共同】米・中共大使級会談は、両国間の緊張緩和への第一歩となるべき希望につゝまれて一日午後ジュネーヴのパレ・デ・ナシオン内の小室で開かれる。沈平ジュネーヴ駐在中共総領事代理は一日午前中にゴウエン米総領事を訪問、会談の技術的取決めを行う害である。

米・中共会談の米国側代表ジョンソン大使は三十一日空路ワシントンからジュネーヴに到着した。大使は到着後たゞちにつぎのように語った。

中共の代表王炳南大使とは一年前ジュネーヴで会談したことがありかれと会うことを楽しみにしている。こんどの話し合いの範囲はダレス国務長官の二十六日の言明と米中共同コミュニケに現われているとおりである。

左社 自由党両議員を告訴

左派社会党は一日午前の国対委員会で、参院暴行告発事件に対する態度を協議した結果、自由党から告訴された矢島参議院議員ら六名は暴行した事実はないとの見地から告発者の青木一男、長谷山行毅の両氏を侮告罪で東京地検に告訴することを決めた。

また参院議員運委で矢島参議員を列国議会同盟会議に出席させないと決議したことは懲罰委員会の権限を侵害した越権行為であるとして断固反対する態度を決めるとともに、議運委の保守三派議員を名誉棄損罪で起訴することになった。このため猪股浩三、坂本泰良の両氏は同日直ちに告訴代理人として東京地検に手続きをとった。

ないがい川柳

吉田杵司選

押売りへ留守居は自腹切らせられ　杉並　吉岡善雄
みつ豆屋踊ちゃん党が来て繁昌　中野　高野芸太郎
対浴衣齢のちがいが柄で知れ　江戸川　伊沢久坊
台風の上陸を待つ観察図　野田　川鍋一醉
三面へアプレ・トニーのしおれすぎ　葛飾　枯すすき
青春のボート銀波に合唱し　福島　佐々木政信
【賞】蚊とハエと水が仕事を呉れる国　品川　蝸牛

内外抄

首相、外相きょう各党首と会談四巨頭会談からの例の思いつきだろうが、対ソ問題だけではねえ。

◇

参院にまで拡がる国会の暴力政治をどうするか。これこそ「四巨頭会談」の価値ある大問題。

◇

参院暴力事件から矢島議員の海外旅行を差止めようと。社党では特賞を出したいくらいだろうが。

◇

中共にはめでたい八・一記念日のきょう米・中共会談が始まる。米国の方もめでたくできとる。

◇

七月中、三十度以下の日はタッタ三日だけだったそうな。猛者との根くらべには全くヘトヘト。

青春無宿（84）

大林清
下高原健二画

◇あらすじ◇ ◇元伯爵宇田清隆の息子次郎はふとしたことからバーに勤める光代と知り合った。光代には榎という愛人があったがそれを根にもつ銀座の興太者は次郎とも犬猿の仲だった◇次郎は興太者の誘いとは知らずある夜、日比谷公園で争ったが、この時旧友に会って偶然にも自分の生みの母を知り、急にその母を尋ねる気になった◇一方清純な光代は客の誘いはいつも退けてきたが、マダムのパトロン菅野の強引な誘惑に引っかかり、江ノ島まで連れ出された。だがそのタクシーにはうまく同僚の真弓が乗ってくれた。江ノ島でどうした風の吹き回しか菅野は真弓と親しくなり光代は無事に帰ることが出来たが、さてマダムの千子と顔を合せても気まずかった。

仲たがい（二）

光代が浮かない顔をして、物想いに沈んでいる理由は、千子に対して気まずい立場にたたされたほかに、二つあった。

昨夜、赤目の西に聞いた次郎の安否が気がかりなのと、昨夜も自分の帰りを待ってくれたにちがいない榎が、なんと思っているかということだった。榎にも次郎にもはやく会って不安から解放されたかった。

十一時になっても客がなく、そのままカンバンの時間が来た。

「こんなことなら休んだ方が気がきいてたわ。真弓の奴うまくやってるな」

照江がぶつくさ云いながら、仕度をしている後から、

「おねえさんは真弓さんのアパートご存じ？」

と、光代がさり気なくきいた。

「銀六アパートでしょう、松坂屋の裏あたりの、たしか二た筋目だったと思うわ。谷間みたいなとこにあるちっちゃな木造アパートよ。だけど真弓さん、どうせ今夜は帰らないんじゃないの」

照江は意味ありげにニヤリと笑った。いくら光代が真弓に知恵をつけられた通りにしゃべっても、ここの連中はママの千子をはじめ、誰もがそれを額面通りには受け取っていない。光代が一人で江ノ島から帰って来たのを、菅野と真弓に、追い払われたと思っているのだ。

光代はいつものように、わざわざ仕度をおくらせて、みんなの一と足後から店を出た。

これから銀六アパートへ行くのは少し時間がおそすぎたが、もし榎が迎えに来てくれていて、そのことを了解してもらえるのだったら、いっしょに行ってもいいと思った。

光代が街路へ出るのといっしょに、頭の上でスカーレットのネオンが消えた。

光代は反対側の街路樹の下から大股にこっちへ突っきって来る榎の姿を見た。何かひどく気負いこんでいる格好だった。

光代は微笑で迎えようとしたがその頬が妙に硬張った。

榎は光代を見すえるように近づいたが、その前で足をとめてからも、口は結んだままだった。

「昨夜はごめんなさい」

光代はまずあやまった。

「あの男と江ノ島へ行ったんだってね」

榎の声が険えを帯びている。

「ええ、真弓さんと いっしょなの」

はじめから順序をたてて、話すつもりだったのが、榎がそのことを知っていたために、変なことになった。

「誰がいっしょだったって、そんなことは問題じゃない。問題は僕の云ったことなど、うわの空で聞き流して、自分勝手な真似をしたことにあるんだ。僕は昨夜その真弓という人がいなくなった時、君の店にいたんだ」

「まァ、そうだったの。あたしここまで来て、お店へはいらないうちに、お店から出て来た菅野さんにつかまったの。とてもすごい力でタクシーへ押し込むんですもの。でももし真弓さんがいっしょに行ってくれるって云わなかったら、どんなことしたって行きゃしなかったわ」

「真弓さんのことなんかどうだっていい！」

榎は激しい声を出した。

売春説に戸惑う秩父女工

50円織姫の虚実を衝く

昔は"最後の突破口" 古老が語る"三銭織姫"

東京から北へ電車で約三時間、織物の町秩父は"女の働く町"である。戦前の最盛期には一万から一万二千人の女工が"おんな"の生きる哀愁をこめて生活譜を織り綴った。そのなかには、封建と因習のカセに人知れず泣いた"女工哀史"も多いはずである。しかし、すべてが企業化され合理化されたいまでは、彼女たちの職場にかつての影はない。ただ織物産地の盛衰と変遷は、その時流のおもむくまゝ、彼女たちの生き方を戸惑わせたことがある。"五十円織姫"の伝説的なウワサが人の口の端にのぼったのもその一つ。—ちょうど近江絹糸争議華やかなりし前後、秩父の町もご多聞に洩れず織物不況にあえいだことがあった。操業短縮で稼ぎ場を失った彼女たちの一部が、たった五十円で身体を売り、漸くの思いでパンを買ったというのだ。そのことが半ば猟奇的にいゝ伝えられ、いまも女工売春のウワサは消えない。もし、それが事実であるとすれば、これこそ知られざる売春哀史でもあろう。その真偽を追って"女の働く町"に足を踏み入れてみた。

荒川を距てて武甲山がなだらかな山腹をみせる盆地の底に、秩父の市街は横たわっている。この周囲に染色、撚糸をふくめた織物工場が約四百、年間ザッと二十億を稼ぐという。織物景気もどうやら持ち直して、これからだ…とは町の人の話だったが、それでも戦前の半数にも満たない。女工の数も五千人足らず。機織りの音も響かない静かな町だった。

ある古老の話によると"三銭織姫"というのが、秩父織姫売春のはじまりだそうだ。ちょうど秩父鉄道が開通した大正初年、仕入れに来た商人に三銭で身体を売った織姫があった。当時の雇傭制度は一種の主従関係で、待遇もいわゆるお仕着せだけ。食べさせて住ませて、年季を勤めあげるとタンスや着物をあてがうという程度だったらしい。だから親が病気になるとか借金を背負い込むと、金の出所は身体を売るよりほかにない。その"三銭織姫"の前例が、彼女たちの一つの突破口になった。三銭と五十円の違いはあるが、それがいま尾を引いているという。

"それほど娘は安っぽくない" 一笑に付す商工課長や組合役員

「そんな話は聞いたことがありませんなァ」戦前は自分も工場を持っていたという市の商工課長は、顔を撫でてそう否定する。組合もできているし、待遇も悪くない、たとえ五十円が五百円、千円でも身体を売らなければ食っていけないほど状況は悪くないはずだ…と語る。「秩父の娘は、それほど安っぽくァないですよ」と笑った。くわしいことは組合で—といわれて、織物組合へ行ってみた。「そりゃァ、数多い女工のことですから、なかには何をしていることやら目の届かないのもありますよ。しかし"三銭"とか"五十円織姫"なんてことは聞いたことがありませんな」と、ここでも逆にケゲンな顔。

そのむかし、機場のオヤジは自分のところの織子（女工）に手をつけたものだ。それでいて、織子の方は「お慈悲を受けました」と感激、実家では赤飯ならぬドングリ飯をたいて祝ったという。

末払賃金闘争ビラと工員募集ビラが並ぶ秩父の町角

悪くはない給料 風紀乱れる住込み制

彼女たちの給料は、決して悪くない。まず新制中卒業で入って二、三カ月の見習い、それから準備工として約一年、熟練工になるには二、三年かゝるが、その熟練工で七千円から一万円稼ぐのは少くない。その支払いは週給制になっていて能力給が主になっている。大体一反織って七、八十円、一日二反織れば熟練組の方だが、一人で四台の機械（力織機）を持つから日に八反、すると日給五百六十円となるわけだ。このうち食費を引かれても月一万円前後は残る勘定だがこれなどは上々の部で、まず平均が五、六千円どころ。それにしても娘っ子の稼ぎとしては悪くない方だ。

ここの織姫は、ほとんどが地元出身者。新制中を卒業して、まず大ていは事務員の口に仕事の望みをかけるが、結局行きつくところは女工である。ここに山間に育つ娘の悲しいレジスタンスが見受けられる。「自分で女工という職業に卑下感を持っているのですな。この卑下感が、ときと場合によってはとっ拍子もないことをやり兼ねません」労基署の監督官は語った。

彼女らは通勤組と寄宿舎組に分れている。そのどちらも食事は工場で支給する。寄宿舎組の待遇はピンからキリまでだ。大工場になると至れり尽せり、その半面、家内工業的なものからやゝ進化した工場では、むかしながらの"住込み制"をとっている。この住込みになると、納屋や裏二階に寝かせたりするのがあって、こんなところから風紀の乱れるものが出ないではない。「労基法では一人一・五畳と決っていますが、これは寄宿舎だけの話。住込みの法規はありませんから、六畳に八人も詰め込んでも、何とも致し方ないわけです」と労基署ではその盲点を嘆いていた。

あすの運勢 —八月二日— 高島象山

一月生—旺盛なる気運に恵まれ事叶い栄昌あり開業結婚大吉
二月生—平和破り難事を起し内外に困難あり家庭不和あり注意
三月生—身近かに裏切られ失敗招き易い使用人や目下家族注意
四月生—有利なる気運あり新に革新的に進取して効果上るなり
五月生—物事思慮に乏しく困境に眩惑され失望失敗有る也
六月生—業的の苦労が起り神経む自然の成行きに任せ無事
七月生—何事も日増しに信用を目的叶う紀業開業就職結婚吉
八月生—内外共に世話苦労あり災禍を蒙り易い社交に注意
九月生—言動より失策を生じ油断をなす保守的に努力し無事
十月生—何事も我儘を発し胃腸の胃徹に努力すれば無事栄達
十一月生—何事も名実伴わず蹉跌破れ易い損失災害おこる注意
十二月生—物事自然に逆行して和を乱し失敗あり家庭に心配有

モダン歳々記 枕絵の名人師宣

正徳四年六月二日、浮世絵版画の祖ともいうべき菱川師宣が没した。房州保田別願院に師宣が寄進した梵鐘があるが、これには元禄七年の銘があり、元禄八年出版の「姿絵百人一首」には故人菱川の記念という序文があるので、没年は元禄七年頃と推定されてもいるが、ここでは俗説に従って正徳とする。今日では保田の生れとなっているが、昔は京都の産といわれている彼の伝記は甚だハッキリしない。

彼の版画は寛永末から元禄初期に到る間のものが多く、肉筆画も上手だったが、それを複数の版画として普及した処に意味がある。土佐の大和絵の気持と狩野派の漢画の手法をうまく結びつけて、貴族芸術を庶民化した功績は大きい。

彼はよく「大和画工」とか「大和絵師」とか署名の上に書き込んでいるが、立派な自侍で枕絵にさえ堂々とそれを謳っている。彼の枕本枕画は今日でも六十種近く数えられていて「枕絵、古今の名人也」といわれているのも当然だ。文学に西鶴、美術に師宣のいた江戸時代元禄の頃のおおらかな立派さは、性的なものをも決してワイセツにしていないことなのである。（鮭）

あぐら草紙 風流のれん街 あまからクラブ

世はあげて透明時代—中の機械まで見えるプラスチックの時計がお目見得したり、オンナノコの柔肌がすけて見えるナイロン・ブラウスが流行したり、ガラスの家があらわれたり、とかく暗くなりがちの当世に、スッキリしたものが喜ばれるのはあながちガラスばりの政治ばかりとは限りません。こゝに、いさゝか蓄えも出来て、狭いながらも楽しいわが家を建てようという仕合せな男、同じ建てるならばと、知り合いの大工にたのんで、総プラスチックのすばらしい住宅をつくってもらいました。日光は部屋の隅々にまでゆきわたり、いながらにして、はるか彼方の丘の上に飛びかうトンボの群まで見られるという健康的な理想的住宅。さっそくうす汚いアパートの一室から一家はこのステキな新居に引っ越しましたが、その翌日、どうしたことか、一家はまたアパートに帰ってきました。何でもかんでも透明なプラスチックの壁にしたおかげで、夫婦のいとなみはもちろんのこと、便所まですけて見えるからでした。

風流辞典 八の部

【八方美人】ご面相はもとより口も八丁手も八丁、それにアッチの方も上等という、つまりオール・ナイス・ガールのこと。

【八字ひげ】中央部の邪魔物にさえぎられて両側に垂れ下ってるひげ、邪魔物って何だいって？ やだよ、このヒトは。

【八時二十分】夜フトンしいたトタンに彼女が来たトタンに鏡見ると判るよ。

【八百八町】大江戸の町の数、町内じゃ知らぬは亭主ばかりてェから、つまり東京にゃ八百八人ポヤッとしてる亭主がいる勘定さ。

【八王子】娘一人にムコ八人をグッと上品にいうと姫が一人に王子八人、グッとくだけていうとメス一匹にオス八匹で性力均衡の意。

【八頭身】人間の体には八つの頭があるっていうこと。上から目に口に舌に喉に指に心に膝に、もう一つ亀さ。ホーラね。

風流世界譚 …（日本）…

問題の売春等処罰法案は、またしても国会でお流れになりましたが、しかし今度の否決は単に審議未了というのではなく、必ず次の国会で政府から法案を提出するという決議がついているだけ数歩前進したものといえるでしょう。業者側も例によって相当な反対運動をしたようですが、考えてみると、この法案の対象となるような事例も、かつての占領時代には国家的見地から、大的に推進されたこともありました。そこで反対意見を有するある種の勇敢な女性たちは、次のような怪気焔をあげたものです。「今になって、私たちのショーバイを取締りの対象にするとは何事でしょう。私たちは身をもって、占領軍の人たちを慰安してあげたんじゃないの。政府はこの頃、やたらに勲章を発行するのが好きらしいけれど、私たち夜間筋肉労働者にも国際平和賞ぐらいくれてもいいはずじゃありませんか」なるほど一理あるかも知れません。しかし、某権威者は慌てずに、厳然とこたえました。「いや、それは考えちがいだ。君たちは政府と同じで、勲章をやる方じゃないかね」

ゾーッとするはなし 怪談十話 ⑧

白田螺沢と蛇女 藤沢衛彦

もやもやした天気の続く日でした。田圃の雨を願う農夫の祈りもむだになって、日中は照りつける方が多く、田圃の地割が深くなると、

「もう、がまんができねえ、白田螺の沢で雨乞いするほかねえ」

誰かいいだして、神主に、沢の主への願文たのみにゆくと、

「こまったこった。それで雨が降っても、それから荒れがつづくでなあ」

神主は、雨乞いのために、白田螺の沢に御幣を投げ込むと、きっと白田螺が騒いで雨は降るが、それからどんな荒模様が続くかわからないといういい伝えを心配しているのでした。

「少しぐらい荒れなけりゃァ、田圃の地割は直らないでしょう 頼みます」

それで、神主は用意して、あした白田螺の沢に御幣を投込みにゆくというので、私もその珍らしい雨乞いの式が見たく、その辺はツツガ虫の産地だというので、紺の衣裳に紺の脚絆でその日村民にまじって"雨乞いまつりよウ"ととなえながら、神主を先だてて白田螺の沢にいったのでした。

ゆく路は、楢の森につづく川沿いの柳の片側並木。川について行けば、越後と会津の境をなす大森林の真ただ中にはいる。川—それは相当の川幅らしいのだが、向うの堤も柳並木で、両方とも、頗るの古木、それが川を蔽うように繁っているので、それほどの川幅に見えません。この両岸が毒虫の巣なので、雨乞いの行列の"雨乞い祭りよウ"の叫びも、ツツガ虫にとりつかれはしないかとの心配で、なんとなく生気のはいらない呼声を咎めるように、川の中から、

「雨乞いまつりよウ」

という声。行列ははっとしてたちどまり、おもわず耳をすますと、少し川下でまた、

「雨乞いまつりよウ」

流れには渦巻の危険があり、ふだん通いの舟も行かぬ川だというので、ふしんがって、堤の柳の繁みから覗くと、何時の頃からともなく、年に一ぺん、柳の若枝の茂る頃を期して、流れに棹さしながら、岸の柳の枝を剪り落してゆく、柳梱製造の若者が、頻りに向岸の柳の若枝を落しては流してゆく光景が眼にとまりました。"なァんだ"という顔をして、雨乞の一行は、

「雨乞いまつりよウ」

と、元気な声で舟に呼びかけましたが、若者たちは、もう幾分冒険味を帯びている仕事に夢中になっていて長い竿の先端につけた鎌を、紺の手甲の間に巧みにうごかしながら、ずばずばと、素晴らしい柳の枝を黙って剪り落すばかりで、雨乞祭にからう気持のゆとりを無くしていました。一行も、はりあいがなく、白田螺の沢の方向に折れて、やがて沢に雨乞いの御幣を投げ込むと、うわさのように白田螺がざわざわと気味わるく動きだすのを尻眼に、再び岸の柳に沿って一行が逍けかえってくる頃、案の定、空一めんの黒雲。やがて風が出る、雨がザァッとやって来ました。

「大荒らしいぞ」

一行が雨乞の旗をなびかして走り出す後の方から"おおい待ってくれェ"と呼びかけて息せき切って走り来る若者たち。

「出たァ、濡れ女だァ」

と、蒼白な顔でいう。

「ばかっ、昔の話だ。そんなものがいるものか。大蛇だろう」

「いや、蛇女だ。髪を流れで濡らしていた」

「よし、いって見ろ。どこだ」

「三叉だ」

勇ましいのについて、私も行ってみたけれど、気狂いのように、舟を漕いで逃げてくる別の若者のほかには、もう三叉には帯のようなものが柳の影に見えただけで、蛇女の姿は見えませんでした。（明大教授）

え・小田明男

東海毒婦伝 青とかげ（25） 野沢純 土端一美画

【あらすじ】◇江戸の分限者、尾張屋喜兵衛の一人娘おりう。両国の川開きの夜、前髪立の若衆侍、早瀬主水を見染めた。そして猿若町の芝居茶屋で再び出逢った ◇おりうの乳母の仲立ちで、向島小梅の里で、早瀬主水と初のあい曳。引回しの屛風の陰に、友禅の襷はあれど手も触れず に別れる◇時もひとしく処も同じ、向島にて おりうの継母、尾張屋の後妻お直。旦那の目を盗んで、店の番頭島蔵と忍び逢っている。そしておりうのあい曳姿に図らずも目をとめ、おのが不倫を棚に上げ、ひそかに野望をはからんとする ◇尾張屋喜兵衛、商用にかねて小田原へ旅の道連れに、後妻お直を伴うと聞き、番頭島蔵、妬心に駆られて店の小者に八つ当りしていると、手代豊吉が娘おりうにいいつけられて風呂を焚かせられた。

蟬しぐれ（三）

「へい—お嬢さま、何ぞ御用で？」

「もう燃さないでいいよ。そんなに薪をくべたら、お風呂が煮え立っちまうじゃないか。お前あたしをうでて煮てしまうつもりかえ？」

「いえ……済みません」

あわてたような声がする。

「ほほゝゝ冗談だよ。本気で返事をしてるよ。ばかだねえ。豊吉、そこはいいからこっちィ来て、あたしの背中を流しておくれ」

「……」

今度は返事がなかった。あまりだしぬけで、びっくりしているらしい。あわてたさまが目に見えるようである。

いたずらそうに、おりうは風呂場でくすりと笑った。

召使のほかに、家の中に誰もいない—と思う気易さが、娘ごころにからかい気味を起させたのかも知れない。

「何をぐずぐずしてるのよ。早くしておくれ！」

「へーい」

やっとのような返事である。

焚口から離れて、湯殿の方へ近づく足音がした。

やがて板戸が、そっと開く。見ると棒縞木綿の尻ッ端折りをした侭、目を伏せてこわごわそうに入って来る。

おりうは片膝立てゝ、糠袋を使いながら、

「何よ、そんな格好して—。着物なんか着ていちゃ、濡れちまうじゃないか。もっと、ちゃんと、おキリッとしといで」

「へーい」

お嬢さまのいいつけとあれば仕方がない。

豊吉、余儀なく、いわれるまゝに、下帯一つの裸になって流し場へ下りて来た。

おりうはそれを、面白そうな顔で見ている。

やがて豊吉は、手拭を片手に、うしろへ回って、おそるおそる背中を洗いはじめた。

十四の春から、お店へ来て、足かけ五年。

房州は洲ノ崎生れの海岸育ちで赤銅色の海女の裸はさんざ見なれているが、町娘の—しかもおりう様の裸を見るのは、はじめてである。

雪のように白いぬめ肌。

つきたての餅かとまごう肩の肉。鏡餅を伏せたような胸の隆起は見まいとしても、つい目に映る。なめらかな腰のくびれは、牝蜂の胴を想わせた。

外では蟬が啼いているのに、その声さえも聞き忘れた。

「いつまで同じ処ばかり洗ってるのよ」

おりうの言葉に、はっとして、豊吉は思わずへどもど。手拭を持つ腕もわなわな。

「ほほほ…豊吉、お前ふるえてるじゃないか。どうしたっていうのさ？」

からかい気味に、きめつけられて、

「へ、へい—」

あわてて、ざあ…と桶湯をかける。

「前へ回って—今度は足を洗っておくれ。お前があんまり熱くわかすんだから、だるくなっちまうじゃないか」

おりうの言葉は、出でてますます放奔である。

ラジオとテレビ 1日（月）

時	★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ 690KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニッポン★ 1310KC
6	00 ❶子供のシンブン❷山の大将（1）椋鳩十・作 25 物語「オテナの塔」	05 英語会話◇きょうの市況 30 受信機講座 富村正春 40 科学クイズ 朝比奈貞一	10 東西こぼれ話 桂小金治 15 スイート・コンサート 25 バイバイ・ゲーム（関）	00 劇「少年宮本武蔵」 10 劇「すずらん太郎」 25 久保田敏夫とラツキー	00 ポツポちゃん物語 15 少年探偵団 真杉和夫 30 歌謡百貨店 松島詩子他
7	15 録音ニュース 30 三つの歌 司会・宮田アナ（広島県府中市広谷小学校講堂にて収録）	00 歌劇「ブリーカー街の聖女」メノツテイ作曲 30 ヨーロツパの国々 鶴見俊輔 松岡洋子	10 録音ニュース 20 文学サロン「杜子春」 30 四つの明星 淡谷のり子 楠トシエ 三浦洸一ほか	00 録音ニュース 10 「テネシー・ワルツ」他 20 ものまねコンクール 柳亭痴楽 井上大助ほか	00 ラジオ夕刊（耳の新聞） 20 花のステージ 後村明 30 ❶漫才 英二・喜美江❷落語「小言念仏」金馬
8	00 お父さんはお人よし アチヤコ 浪花千栄子ほか 30 浪花節「怒涛の愛」伊丹秀子	05 きょうの国会から 20 補助金の行方 木村禧八郎 近藤康男 土屋清	00 オー・ヘンリー物語「賢者の贈物」北沢彪ほか 30 タレント・スカウト 芥川アナ 楠木繁夫ほか	00 親子三代演芸会 有島一郎 石井亀次郎ほか 30 劇「雪之丞変化」市川中車 岩井半四郎ほか	00 浪曲明治維新「維新の涙」五月一朗 30 フランキー歌う大学 フランキー堺ほか
9	05 ニュース解説村田為五郎 15 街頭録音「最近の世相をどう思いますか」 40 春子の手帳 メイコほか	00 名作劇場「群盗」シルレル原作 秦豊吉訳 加藤精一 北村和夫 名古屋章 加藤道子ほか	10 銭形平次捕物控「殺され半蔵」滝沢修 渡辺篤ほか 35 ❶漫才 いとし・こいし ❷落語「松山鏡」桂文楽	00 これがタンゴだ フランシスコカナーロ楽団ほか 30 浪曲名婦伝「川上貞奴」三門お染 東家みさ子	00 僕等が歌を唱ら終つたとき メイコ 市村俊幸ほか 30 歌の二人三脚 佐伯徹 宮崎恭子
10	15 新家庭読本「お父さんの汗」（録音構成） 40 納涼お国めぐり 防府他	00 ❶初級英語 小野嘉寿男 ❷上級国語 増淵恒吾 45 気象通報	05 きょうのニュースから 15 劇「黒髪ざんげ」 30 歌劇「フイガロの結婚」	00 大学受験夏季実力錬成講座 英文和訳 岩田一男 30 解析（1）田島一郎	00 劇「南無三宝」本郷秀雄 15 落語「虎之助」桂米丸 35 緋牡丹記 轟夕起子ほか
11	10 世界をつなぐ 20 故郷と文学 江口榛一	05 商品学入門 宇野政雄 20 夏の病人の栄養芦沢千代	10 水中世界への道 40 政局の動き	00 青空会議「第二特別国会を採点する」河野密ほか	00 スポーツ・カレンダー 15 新しら村のあゆみ

テレビ

★NHK★ ◆6・50 ニュース◆7・01 ジエスチヤー◆7・30 座談会「ベルリン映画祭より帰つて」◆8・00 劇「霧を追いかける男」小山源喜ほか◆8・30 国際プロレス実況「カーチス・オルテガ対力道山・東富士」

★NTV★ ◆6・00 おもちや箱◆6・15 都民の住宅問題 ◆6・30 コメデイ「二人でお茶を」古賀さと子 千葉信男 沢村いき雄ほか◆7・30 後楽園球場から都市対抗野球大会実況◆9・00 きようの出来ごと・テレニュース

★KR★ ◆6・00 シルエト「惑星第十号」テアトルプツペ ◆6・20 映画「黒潮の街」◆7・00 映画「まぼろし小僧の冒険」◆8・45 テレビルポ「軽井沢」◆9・20 毎日TVニュース◆9・30 ポケツト音楽

あすの番組

NHK第1	NHK第2	ラジオ東京	日本文化	ニッポン
7・45 朝の訪問 藤村郁雄	8・00 入浴と清拭古屋かのえ	8・20 ラジオ・スケッチ	8・25 おしやべりレデイ	7・35 放送論壇 大濱英子
8・05 名演奏家の時間	8・30 大作曲家の時間	9・45 飛沫を上げる乙女たち	9・30 劇「青春のあるところ」	8・00 劇「サザエさん」
8・30 気質三題 永井竜男	9・00 きようのラジオクラブ	10・10 名作「津軽の野ずら」	10・40 劇「君ひとすじに」	9・00 お早ようブーちやん
9・15 新しい和服 大塚末子	10・15 実力養成七週間	11・15「母のない子」夏川静江	11・35 連続劇「東京の人」	10・00 やりくりチヨ子さん
10・05 けさの話題 三神茂	11・00 音楽の時間野呂信次郎	12・15 末弘ゆきとリトル楽団	12・15 昼の演芸◇歌の歌束	11・00 連続劇「悦ちやん」
11・05 人は何で生きるか	11・30 社会科の実践馬場四郎	1・30 働くお母さん保育園	1・15 落語随想 三遊亭金馬	0・00 漫才クラブ「裏窓」

悪夢!都会の誘惑

転落の家出娘から更生の手紙

脅かされて一味に

ガラリ態度を変えた〝親切一家〟

パチンコ店を転々、玉出し

「警察の皆さま、暑さの折いかがですか。私はおかげさまでいま故郷の焼けつくような熱い田の中で汗だくで働いております。思えばあのころの私は浮わついていて本当に馬鹿でした。いまはしみじみと勤労の尊さを味わっております。皆さま有難うございました」――以上のような手紙が、このほど浅草署に届き、係官を喜ばせている。かつて同署で保護した転落家出娘からだが、彼女が更生するまでには次のような〝都会の誘惑〟があった。

◇それはお定まりの家出―転落のコースだった。去年栃木県作新高校を卒業し、宇都宮の高等洋裁学校に通学していた栃木県塩谷郡北高根沢村字上高根沢の林さき子さん(一九)=仮名=は四月末夜遊びが過ぎると両親に叱られた。これが、かねて東京に行きたいという都会への憧れに拍車をかけた。家出して上京、しばらく遠縁の川崎市鋼管通り三の一八永沢方に居候のかたちで同居していたが、遊んでもいられず新聞広告で四月下旬豊島区巣鴨の「ミヤコ」パチンコ店に住込店員として働き出した。

◇同店で客の北区田端新町三の五増山ふみ子さん(一九)と知りあい同女から「高校も卒業し洋裁学校まで通いながらこんなパチンコ店で働くなんてもったいない、そのうち適当な職を世話するから私の家にいらっしゃい」と誘われ、異境の淋しさが身にしみていたさき子さんは大喜びで移っていった。

だが、ふみ子さんの好意も束の間一週間も過ぎると同女の父林一郎(五三)母ツネ(五二)兄一夫(二七)の三人ががらりと態度を変え「七日も八日もただ食わしていたのではこちとらがかなわねえ、パチンコ店員になって俺たちに玉を出せ」と脅迫し、無理矢理に文京区駕籠町パチンコ店、台東区三輪町トップ遊技場など五月から七月まで転々と働かされ泣く泣く約六万個の玉を流し、その都度店を解雇され、親子は約十万円をただ取りしていた。この間さき子さんが一人で留守をしていたとき長男の一夫が帰宅し「お前と夫婦になろう、約束してくれ」と偽って貞操を奪い、情交のたびに「早く金をためて世帯を持とう」と玉流しを暗に強要していた。

◇はじめは夫婦になれると信じていたさき子さんも、その後一夫には吉原の特飲街内に将来を誓った女があり、玉流しをさせるのもその女との世帯を持つための金ほしさとわかった。田舎者ゆえにだまされたと知ったさき子さんは都会の恐ろしさを初めて知って後悔し、すべてを清算するため七月二十六日浅草署に自首したものである。(玉流しは窃盗罪に該当する)同署では訴えにより増山親子三人を七月中旬検挙送検したが、さき子さんは情状酌量されて郷里に帰っていった。

◇このほど同署防犯係直井主任宛に「わがままと好奇心から恐ろしい東京とも知らず家出してご心配をかけました。焼けつくような田の中にはだしを突っこんで一生懸命汚れを落すため汗を流しています…」と更生の手紙が届いた。直井主任も「本当によかった。都会は恐ろしいところだ。無分別な家出はやめてほしい」と語っている。

二人組で金庫破り

会社荒し70件三百五十万円

放火窃盗犯が自供

岩村 菅谷

[illegible] ○七太平信用金庫三鷹支店=支店長宮崎武雄氏(五七)=に侵入、同様 [illegible] タクシーで夜不在になる金庫のある事務所を物色、ドライバー、ペン [illegible] 届出た。

脅して暴行

[illegible]

両陛下那須御用邸へ

[illegible] の研究を楽しみにしておられるそうである。

小林君に特別平和賞

行進曲『広島を忘れまい』が入賞

【ロンドン三十一日AP=共同】[illegible] った。

このような賞をもらうとは夢にも思っていませんでした。中央合唱団から今年春音楽コンクール用に歌詞四十篇を送られてきた中から明るく、ノビノビと歌える歌としてこの「広島を忘れまい」を選んだもので、三時間ぐらいで作曲しました。受賞はもちろん初めてで、行進曲としては昨年作曲した「アジア平和行進曲」に続いて二つ目のものです。

△小林秀雄君略歴=昭和六年二月東京生、三重県宇治山田中学校卒業後東京芸大作曲科に入り今春卒業、バレエ曲「ピアノ二台とフルートのための舞踊音楽」「ピアノと弦楽合奏のための音楽」の作品がある。

小林君

坊やも懸命!

善行会など清掃奉仕

○…真夏のお天道さまがようやく眼をさました一日午前六時、皇居前広場に集った男女学童や家庭の主婦などが、箒やちりとりをもって清掃に一生懸命だ。

○…これは都清掃本部と善行会東京支部が毎年行う清掃運動の一行事で、この朝は泰明、昭和両小学校の学童三百名が特別に加わり、善行会の人々と共に二重橋から馬場先門にかけて残屑一つなく綺麗にした。

【写真は学童達の皇居前清掃】

14カ國の坊さん集る

色とりどり、宗教世界会議

教義をこえて人類の基本的問題を討議しようと、世界でも初めてという「宗教世界会議」が一日午前十時から麻布の国際文化会館で開かれた。この会議は昨秋以来前文相安藤正純、日印友の会々長下中彌三郎、同志社大前総長牧野虎次氏らの熱心な呼びかけで、このほど開会の運びとなったもの。国内は神社、仏教、キリスト教から天理教、大本教、さらにPL教団、国外からはインド代表の二十名を筆頭に米、英、ヴェトナム、マライなど十三ヵ国代表約六十名が加わり、外国代表の中にはアルホスアイニ・イラク前文相、サチャナング・マライ宗教相らの顔も見えた。午前十時志村会議事務総局長の開会アナウンスに始まり、緑ヶ丘音楽舞踊学校合唱団の聖歌、鳩山首相(代理)の祝辞、各外国代表のあいさつがあり、午後は二時から総会に入り、会議規程の決定、議長団の選任などがあって午後五時すぎ第一日の日程を終った。

会場の各国宗教代表

脳炎9名続発

目黒区中目黒一の七二九無職小野塚勇蔵さん妻千代さん(四五)は三十日発病荏原病院に入院したが、三十一日真性日本脳炎で死亡したほか、北多摩郡国分寺町五の四五一公務員戸井田仲次郎さん(六五)は二十七日発病、三十一日昭和病院に入院したが真性日本脳炎と判明した。また杉並区阿佐ヶ谷五の六六会社員市村健治さん次男徹ちゃん(一〇)はじめ九名がいずれも三十一日疑似日本脳炎と判明した。これで都内の日本脳炎は真性十六名(死亡七名)疑似四十二名(死亡五名)の計五十八名(死亡十二名)となった。

八幡対松下で火蓋

都市対抗野球ひらく

ミルウォーキーでの世界選手権を目指す二十六回都市対抗野球大会は一日後楽園球場で華々しく開幕した。定刻午後零時半恒例の入場式、黒獅子旗をかざした前回の優勝チーム八幡製鉄以下全国二十五代表が各々チーム名のプラカードを立てて堂々入場、グラウンドを大きく一周したのちホームプレート前に整列、小野大会委員長の開会宣言ののち八幡製鉄国方主将から優勝旗が返還され、華麗をきわめた入場式を終った。同一時半八幡製鉄対松下電器戦でミルウォーキー目指しての火蓋が切られた。

福島商野球部員九名が中毒

【山形発】全国高校野球東北予選に出場中の福島商高野球部員九名(宿舎山形市旅籠町柴田屋)が三十一日夜猛烈な下痢、嘔吐を催し、同町村上医師の診断を受けた結果食中毒と判った。三十一日夕食に出た肉の煮込みが原因とみられているが、二、三日で回復する模様、なおこのため福商の準決勝出場につき大会本部で協議している。

都宝くじ当選番号		
1等(200万円)	3組	149827
前後賞(50万円)	3組	149826
	3組	149828
残念賞(1万円)1等の組違い同番号		
2等(50万円)	7組	137939
3等(20万円)	6組	195780
	1組	119389
	2組	104420
残念賞(5千円)2、3等の組違い同番号		
4等(10万円)		152839
5等(5万円)		167253
		126078
6等(1万円)	下4桁	3330
7等(千円)	下3桁	263
8等(500円)	下3桁	605
9等(100円)	下2桁	22 35
10等(30円)	下1桁	1、4、6

あすのスポーツ △プロ野球 東映対阪急(七時、浜)トンボ対毎日ダブルヘッダー(五時、川崎) △全国都市対抗野球 日本コロムビア対全鐘紡、大分鉄道局対川崎重工、東洋高圧砂川対鐘ケ淵化学(一時半、後楽園) △ボクシング次期バンタム級挑戦者決定戦(六時、田園コロシアム) △競馬 川崎(正午)

花月園競輪五日目成績 ◇第一B(千二百)①小drawn孝1分42秒9②福島⑤5単③③須金春(単)100円(複)120円130円280円(連)④—③840円

戸田貞三氏(文博、東大名誉教授、社会学会長)肝臓癌のため療養中のところ七月三十一日午後八時三十分東京都文京区関口町一九七の自宅で死去、六十八歳。兵庫県出身、明治四十五年東大卒、東大教授、文学部長を経て二十二年名誉教授となり社会学会長、社会教育連合会会長を勤めた。告別式は三日午後三時から四時まで雑司ケ谷斎場で行われる。

独眼灯

○…一日朝九時ごろ国電池袋駅山手線ホームで、四つんばいになり、これがホントの涼味タップリな列車ダイビングだと飛び込む真似をしたりレール上に寝ころんで駅員や通行人をヒヤヒヤさせる四十歳位の男。

○…おかげでその都度電車は止るので同駅は大騒ぎ。

○…池袋署に保護し調べたところ埼玉県福岡村河岸一一三六駐留軍要員堀田清(四七)で暑さで頭のネジがゆるみこの始末とわかり散々油をしぼられて、このダイビング男スゴスゴと帰った。

平間 明大拳闘監督ら検挙

喧嘩に加勢、剃刀で斬る

目白署では三十一日夜豊島区長崎一の一三明大ボクシング部監督平間静夫(三七)ほか二名を傷害容疑で検挙、調べでは平間は同夜八時ごろ豊島区長崎一の二八先で、仲間の二人が同町一の二会社員井上桂さん(三九)と喧嘩しているのにゆき合い「助けてやる」と持っていたカミソリで井上さんの頭に斬りつけ十日間の傷を負わせたもの。

幼児が窒息死

一日午前五時ごろ品川区小山八の一九〇五会社員増田晴男さん(三〇)の長男公洋ちゃん(一つ)が自宅六畳間のこども用ベッドの上でおしゃぶりを結んだ長さ二尺ほどの真田紐を首に一まきして死んでいるのを妻美千子さん(二五)が発見、荏原署に届出た。紐はおしゃぶりがなくならないようにベッドのワクに結んであったもので、夜中に目をさまし遊んでいる公洋ちゃんが寝返りをうったために紐が首にまきついて窒息死したものと同署ではみている。

自宅に放火半焼

畳職、保険金ほしさに

目白署では一日朝豊島区高田南町一の一〇五畳職人山田順一(五九)を放火容疑で逮捕した。調べでは山田は仕事がなく生活が苦しいところから保険金詐欺を思い立ち、昨年八月から家財道具に二十万円の保険をかけ、一日午前四時三十分ごろ自宅三畳の縁の下に新聞紙を入れて放火、木造平屋住宅七坪を半焼したもの。

贅沢?約束が違うヨ

氷に冷いキッスさ

本音を吐くとボクは参った。首スジがぞくぞくっと暑くなるんだからやり切れん暑さだ。カイロ替りに氷を抱いたのだがサッパリでコリコリ?した。そこでボクはご覧の通りデレッとぶざまな格好をしてみた。人間共は口が悪い。「わーっ、贅沢なペンギン鳥だ、五十万円もする冷房装置の中に入りながら、なおかつあんな大きな氷を入れて貰って…」とこのボクの苦しみも知らずにキャンキャンねたんでいる。ボクは些かむーっと、肚にきたので「育ちが違うんでエ、俺はかつて南氷洋の王国に君臨した皇帝ペンギン様だぞ。君らみたいにちっぽけな島国に呼吸し、やれ今年は猛暑続きだ豊年だ、去年の長雨には弱ったなんて喜怒哀楽を顔には出さぬ。ただ残念なのは今は捕われの身、せめて故郷の思い出にもと一塊の氷にキッスし遠い故国の夢をみているんだ。ボクの過去のロマンスを知らないだろう。渺々たる氷原に彼女とチュウチュウ戯れ冷いキッスをしたんだ、どんな格好だって?くやしかったらこの写真を見給え!」

①皇帝ペンギン

エムさん 241

なんだ 暑いんだ

また 入れてよ

氷室

続 情炎の千代田城（195）

岩崎栄　寺本忠雄画

◆あらすじ◆ 六代徳川家宣の時代になつても千代田城内の確執はやまない。世継ぎをめぐつて、正妻、側室が対立し幕閣の諸大名がこれに連らなつているからうるさい◇側室派は大奥の大老格絵島を中心に動いていたが、この頃の絵島は正妻派に近寄ろうとしている形勢にある。それは自分が「日は陥れた勘定奉行荻原重秀の用人長井半六に心が傾いたためらしい◇一方どこまでも新井白石一派と組んでいる八百定侍一家は閑吟亭木人先生にそそのかされて敵派荻原邸に入り込み、千両箱を盗んだほか、荻原を助けに江戸へ乗り込んでくる柳沢吉保の行列へ斬り込んだ。これは柳沢と荻原重秀の連絡を断ち切ろうとするためであつた。

初午（九）

「斬り捨ていッ」

行列のなかほどから、絹を裂いたような、疳走った叫びがあった。

柳沢吉保が爆発したのだ。そして駕籠脇のものが一人駈けて来て、八角に、

「ちょっと、殿がお呼びでござる」

「はッ」

とりあえず、八百定をそのまゝに、吉保の方へ急ぐ八角を見送っていた八百定は、

「うん！」

俄に思いついたふうで、一間ばかりの高さに、往来へひさし型につき出ている岩に、パッと飛びついた。飛びついたと見る間もなく、もうその岩に立ち上っていた。ふだんから、火事場で鍛えている跳躍だ。

「あッ」

「あれは」

供先きが奇声を発し、躍り上って騒ぎ出した。八百定が弓に矢をつがえているのだ。

そして大声だ。

「ヤァいッ　柳沢のヤロウッ　覚悟をしろッ。悪運の尽きだ、諦めちまやがれッ。矢でも鉄砲でも持って来やがれだ。天下の直参と、二十五万石と、いのちの取っかえっこだ。文句はあるめえ、南無妙法蓮陀仏だッ」

切って放った。ビューン！　と弓絃が鳴った。

ピシッ――

八角がすかさず、平手でその矢を叩き折った。吉保が、

「斬れッ」

そしてすぐにまた、「あとの始末は余が致す。旗本であろうと何者であろうと遠慮致すなッ」

八百定の二の矢が唸った。八角が刀で斬り落しながら、奔馬のように駈けてくる。

三の矢も切り払って、ダッと一間の岩ひさしに跳躍した。八百定が、頭からまっ二つになった―と見えた瞬間を、砂塵と、地鳴り震動と、同時に爆雷かと思われる轟音と火花と―物凄い落岩だった。

一とかゝえ、二たかゝえの岩、岩、岩……ガラガラッ、ガラガラッ、絶壁の上空から、おそろしい加速度に降りかゝって来た。

八角は折れた刀のツカを握ったまゝに、一髪の間をパッと、三間ばかりもうしろに飛び退っていた。

吉保の行列はもはや、支離滅裂だった。そこにもこゝにも、大小の岩石が霰のように、百雷のように落ちかゝってくるのだった。

誰が一たい、こんなに痛快な作戦をこゝろみているのか。

絶壁の中腹では、千代太郎が、洞穴みたいな湾曲部に体をかくしながら、これはよじ登ってくる敵を、次から次にと斬り落し、突き落し、蹴り落すことに忙殺されている。

おびただしい落石は、その彎曲部の上を越して、もっと遥かの上空から降ってくるのだった。

まさかのときは、と、かねて、山窩の釜爺ィからわたりをつけられていた甲信地区の山の者が、二三十人も、絶壁の頂上に布陣し、必死と活躍しているのだった。

駕籠を中心に、柳沢の一行は、行列を踏み荒された蟻のように、幾曲りの山道をもと来た方に逃げ帰って行く。

夕立が去ったあとのように、山も谷も森閑とした静寂にかえって、渓流の音が甦り、鶯の囀りが谷を渡って聞こえだした。

千代太郎は岩の肌を伝って街道に降りて来た。血と―呻めき声も無い死体が十五、六。

猿のようなものが、パラパラと岩壁を駈け降りて来た。山窩どもである。

八百定が路傍の穴底から、砂まみれの顔で、這い出して、もういいかいといった。

高村所長、中村メイコに演技賞

松竹では「花嫁はどこにいる」（監督野村芳太郎）に出演している中村メイコに高村撮影所長から演技賞を贈ることになった。松竹専属以外の出演者にこの種の賞が贈られるのは初めてである。

作戦図に当った日活

南田洋子引抜の背後をさぐる

久しく鳴りをひそめていた日活の引抜きの手がついに大映の上にのび、アッという間に秘蔵っ娘スター南田洋子を引攫った。「もう日活は資金難で、とてもそんな芸当はできっこない」とタカをくくっていた折だけに、偶然この一と幕は映画界の注目を集めている。さてそこで、これが刺激となって再び日活対五社の雲行きがあやしくなることが考えられるが、更に第二、第三の引抜き戦はこれからも続くことだろうか？　南田洋子引抜き騒動の背後を探ってみる。（F）

大映の盲點つく　本人も当日まで知らぬ顔

南田洋子

南田と日活の間に交渉が始められたのは昨年九月ごろからのことで彼女の大映退社説はすでに何度となく関係者間に噂されていた。そのためいささか噂に対して免疫になっていたことも事実で、大映側の彼女とごく親しい者達でも、調印が十五日発表される寸前までは「またか」と思っていたという。しかも発表される前日の十四日には彼女を囲んで病気全快祝いと親睦会も催される予定となっており、その準備のため大映の一部ではスケジュールも組み替えたりしていた始末だった。ところがその当日になると南田の日活入りの噂が益々ほんものらしくなり、はては彼女から退社届まで出されたというわけで、この親睦会をあてにしていたメンバーは啞然としたという話が伝わっている。

このようにこんどの場合は、日活側の作戦がまったく図に当ったといえるわけで、その間の事情を某プロデューサーは「南田自身も一切このことをしゃべらなかったし日活も担当重役以外に知らせてなかったようだ」と語っている。従って彼女が仮調印をした六月二十六日、正式契約となった七月八日にしても、大映側は全く知らなかったわけである。従来から彼女はあまり取巻きの寄生虫的存在は少なかったようで、この三月に東京映画への出演交渉を行った際もあまりアケッパナシで交渉内容の総てを会社に知られ、簡単に失敗したという例もあった。そんなわけで、こんどの場合もすべて彼女の後にかくれた黒幕的存在がかいた一幕だという説が強い。

まずその噂にのぼったのは、さき頃芦川いづみを日活に入れ、山田真二、白鳩真弓を東宝に移籍させ三月に南田の東京映画出演の企画を売り込んだプロデューサーのS氏であった。ところがこんどの場合はSプロデューサーもまったく関係なく日活首脳部から直接の交渉だったといわれる。しかもその連絡には大映から日活入りした人人が数人で個々に当り、最終決定まで首脳部は一切顔を出さなかったという。そこで小ものが動いているという噂が大映側に入ってはいたのだが、それほど気にしなかったわけで、これがあざやかに盲点をつかれたかたちになったもの。加えて日活の資金不足の噂やら業績不安の噂を大映は計算にいれて軽く考えていたということになるわけだ。事実日活株も本年一月には百円を超していたものが、七月二十八日現在六十六円と暴落している。この間の事情を東京証券取引所調査課にきけば「一口にいえば全プロによる業績不安と、二割配当の無理から不渡りも出しかねない資金不足が今日の底値となったわけだが、何分怪物といわれる堀社長がやることだけに、個人的な意見とすれば、近く信用も持ちなおすだろう」といっている。

これで一段落か　南田の引抜費二百万円？

こんどの契約で日活が彼女のために使った金は約二百万円（彼女の手に入った額は百二十万円といわれている）を超している模様だが目下のところの状態では日活が更に第二、第三のスター引抜きをするだけの準備金を用意している様子はないようだ。これについて日活の松崎俳優課長は「全プロを製作再開八カ月目でやった無理が金のないという噂を生んだもので、いまはそれも峠を越した感じだ。まして最近のように作品も続けて当っている状況では銀行から資金もドンドン入ってくる。だからといってこれが俳優さんを引抜くための金ではなく、製作資金だ。それに日活としてはいままでも契約中に引抜いたことはないし、これからもやらない。だからこんど他社の人が入ってくることがあったとしても、これは引抜きではない」と語っている。従って日活引抜き騒ぎも南田洋子問題をピークに一応平静にもどり九月の五社協定切替期を迎えるとみる向きが多いようである。

映画やぶにらみ　他愛のない喜劇

初恋三人息子（東宝）

▽…湯島天神の付近に一軒の酒屋（柳家金語楼）がある。その長男（伊豆肇）は無口で無愛想な変り者、次男（高島忠夫）はチャッカリやのマンボ狂。三男（藤木悠）は学生だが怪しげな政治論をぶつという揃ってイカレタ一家が。踊りの師匠姉妹（久慈あさみ、司葉子）女中（北川町子）喫茶店の娘（木匠マユリ）などに惚れたり、ふられたりするという、至って他愛もないドタバタ仕立の喜劇で、演出は青柳信雄。

▽…新東宝からジャズの歌える高島を連れてきて作ったという思いつきはマンボ時代の昨今だけにいただけるが、その親子があまりドタバタと悪ふざけしすぎて素直に笑えない。たゞ金語楼、飯田蝶子といった捨てゼリフのうまい連中が、声に出さない声で適当にくすぐったり、北川町子に不思議なお色気が出ているのが面白い。とはいえ登場人物達の下町ッ子らしい風俗、気っぷも生きておらず、中途半端なものに終っているあたり、一体何を狙って作ったのだろうと考えさせられる。（勇）

【写真はその一場面、北川と高島】

「警察日記」が第一位

上半期都民映画コンクール受賞作品決る

上半期都民映画コンクールは邦画十九本の参加で競われ、日活「警察日記」（監督久松静児、主演森繁久彌、三国連太郎、伊藤雄之助）東宝「浮雲」（監督成瀬巳喜男、主演高峰秀子、森雅之）の二作品が決選となったが、二二五九票対五一九票で「警察日記」が第一位となった。

テイチクが折れる

「琵琶湖心中」のレコード発売中止

「琵琶湖心中」の流行歌化をめぐって紛争を続けていたテイチクレコードと大阪富田林高校間のイザコザ（既報）は、二十九日テイチク原口社長と篠原富田林高校長との話合いによって、テイチク側がこのレコードの発売を保留することに譲歩して円満に解決した。保留とはいうものの発売中止となることは明らかで、これにより従来とかく問題を起しがちだったレコード会社が、関係者の抗議によって発売を中止したという新しいケースを示したことが注目されているなお今回のこの抗議に際しては同高校のみならず富田林市の教育委員会と同市青少年指導員連絡協議会が中心となって、心中を礼賛するようなレコードは追放しようと全市をあげて反対運動を行い、これが大きく影響したものとみられている。

浅草の空の下で ②

リリー朝路（カジノ座）

▽…昭和二十五年に浅草座からデビューしたのだからこの人もすでに浅草には五年になる古顔だ。横浜セントラルからムーン冴子とともに浅草座入りをした頃には、ポーラかほる、メリー梅園、シルバー紅などというのがスターだったが、その彼女らもいまはすでに消えてしまっている。それを思えばリリー朝路はストリップ界の草分けの一人といってもいいくらいのエンコ・ガールだ。

親しみのもてる仲見世　映画は欠かさずコマギレ見物

▽…「浅草ってとこ、いればいるほど好きになるとこよ。なんていうのかなァ、こう、人の気持ちがザックバランでさ。とてもいゝじゃないの。買物は大ていの仲見世よ。新仲見世もいゝけど、やっぱり前からある仲見世の方がいかにも浅草らしい感じがするでしょ。毎日劇場へ来るとき観音さまへお詣りして来るの。とてもいゝ気持ヨ」と彼女は眼を輝かせて語る。眼がクルクルッとしているから「ホタルイカ」というあだ名があるんだそうだ。

▽…昭和九年、満州は吉林の生れ。終戦によってはじめて日本の土を踏んだという大陸育ちの引揚者だ。毎日舞台が終ると六区の映画館を見て歩くのが日課の一つ。従って映画という映画は邦・洋問わず全部見ているという大変なファンで「浅草が大好きよ」という理由の一つもその辺にありそうなんだが「それが実はいつも九時頃に行くでしょう。少しはじまっちゃっているんで、満足に全部見たこと一度もないの」という変則的な映画観賞ぶりだ。それでも彼女は浅草が好きで好きでたまらないんだそうである。

【写真は仲見世にて】

おしゃべり横丁

徳球の死

あんまり泣いたら眼まで赤くなった。　―日共党員

はと笛

▽…「浅草の鬼」に出演して、このところもっぱらエンコづいている根上淳が、つい先日国際劇場へ江利チエミの楽屋訪問としゃれてみた。

▽…とにかくこの二人はチエミのデビュー映画「猛獣使いの少女」以来の親友？なので、シャベリだすとなかなか話が止まらない。そこでチエミがあやうく出番をトチルてなことにもなりかねなかったが、いったいこの二人、何の話でもてゝたのかとよくきいてみたら「俺はどうして恋人ができねえんだろう」「あたしはなぜ好きな人ができないんだろう」だって―いっそ、いないもの同士でいかゞです？【写真は根上淳】

新選 都々逸　小沢扇太郎選

今月の選者は小沢扇太郎氏が擔当いたします

スイと蛍が意地悪そうに忍ぶ二人の鼻っ先　向島・君福

酔っているこの身を優しく照らし転んじゃならぬと夜半の月　横浜・本砂和夫

瀬のせせらぎ河鹿の声に今朝も二人の旅の宿　大田・鈴木一正

きつときつとと手を振って汽車が出てゆく山の驛　木場・猿谷三十越

奥さんに悪るいけれども貴方を借りてひとり占めして見たい欲　港・廖胡伊吉

こんがらかつて占いにくい浮気女のお手の筋　選者

古賀さと子、設楽幸嗣で仲よしコンビ

松竹では「愛の一家」（監督萩原徳三）における古賀さと子と設楽幸嗣のコンビが好評だったので、今後このコンビをなかよしコンビとして大いに売出すことになった。